

今日のみことば

□ 2月18日(日) 士師記 10章

神の民イスラエルは、神の恵みを忘れすぎに偶像礼拝に陥った。士師トラが23年、ヤイルが22年イスラエルをさばいた後、イスラエルは真の神から離れてしまった。

□ 2月19日(月) 士師記 11章

ギレアド出身の士師エフタについて、アンモン人との戦いにおける活躍と、凱旋する彼を待ち受ける悲劇が語られています。ヘブル書の記者はエフタの信仰を推奨している。

□ 2月20日(火) 士師記 12章

エフタとエフライム人との対立が起こったが、エフタはそれを収め士師として働きました。イブツァン、エロン、アプトンについては士師として働いた以外の記録はない。

□ 2月21日(水) 士師記 13章

サムソンはイスラエルをペリシテ人から救い出すにあたって神に用いられた器である。しかし彼の生涯は私たちの模範になるよりは多くの悲劇を含んでいます。

□ 2月22日(木) 士師記 14章

他の士師たちは民を率いて外敵と戦ったが、サムソンは常に個人として戦いました。敵に対しては超人のような力を発揮するが、女性に対しては幼児のように弱かった。

□ 2月23日(金) 士師記 15章

サムソンは乱暴で道徳的欠陥を持ってはいたが、神に対する信仰のゆえに、ペリシテ人との戦いに勝利をおさめた。神はサムソンの祈りを聞かれる。これが彼の至福の時であった。

□ 2月24日(土) 士師記 16章

ナジル人の誓願をサムソンは道徳的弱さにゆえにデリラに不用意に取り扱った。サムソンは大失敗したが、誓願を新しくしたサムソンに真の神は力を与えられ勝利をもたらされた。

ろ ぼ No. 1855
2018年 2月18日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ 2:4

イエスは母に言われた。
「婦人よ、わたしとどんな
かかわりがあるのです。わ
たしの時はまだ来ていま
せん。」

私たちはイエスが口にされた言葉のひとつ一つを、いかにしっかりと聞きとらせていただいていますか。このガリラヤのカナンで起きた出来事は、イエスに母マリヤが「ぶどう酒がなくなりました」と話されたことに始まります。言われてイエスは「私とどんな関わりがあるのですか」と問われましたが、マリヤは召使いたちに「この人が何か言いつけたら、その通りにしてください」と言って立ち去りました。

マリヤの言葉は非常に不思議としか言いようがありません。しかしマリヤには納得いく言葉でした。イエスを知っていたと言うほかありません。そこに神さまのわざが起こりました。「わたしとあなた

に、それが何の関わりがありますか。わたしの時はまだ来ていません」とイエスは言われました。私はマリヤがイエスを知っていたように、イエスご自身もご自分を知っておいでであったことを覚えさせていただきます。そこでこのように言われたのです。すべては神さまの御心の中で動いています。イエスがその働きを開始された初めの言葉を思い出して下さい。イエスは「時は満ちた。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:15)と宣告なさいました。

「何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある」(コヘト3:1)とあります。私たちは神さまの時を超え

ていくことは出来ません。今思っている一つのことがあります。多摩みぎわ伝道所が教会組織をする決断をして、喜んでその準備を始められ、その相談をも受けました。その手続きなどで連盟事務所と打ち合わせをした方がよいと助言をしました。教会組織をして、日本バプテスト連盟に加盟をして協力伝道の働きに参画したいと希望に燃えておられました。連盟に行かれて宣教部主事と話をされ、連盟にはそのために踏むべき手順があり延期になりました。私たちは様々な状況の中で同じような経験をされたことはありませんか。神さまの時があります。私たちはどのようにそれを受け止めてきたのでしょうか。

イエスはマリヤから「宴会のぶどう酒がなくなった」と言われて、「わたしとどんな関わりがあるのか。わたしの時はまだ来ていない」と言われましたが、その後でイエスはそこにあった水がめに、水を満たすよう命じられ、水をぶどう酒に変えられました。結果的には母の期待に応えられたと言うことですが「イエスの時」は大事です。「イエスの時」とはヨハネにとっては「栄光の時」でした。聖霊によらなければだれも、イエスの真相を知ることはできず、そのしるしは人々には分からないと言うことです。にもかかわらずイエスは、ご自分の「時」のために水をぶどう酒に変えられました。この出来事が私たちに語るものは一つです。イエスを語るということでした。弟子たちはこの出来事を通して「イエスを信じた」と記されています

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

マルコ 11:1-11 主がお入り用なのです

イエスはエルサレムへ向かっておられた。近くに来たとき弟子に「向こうの村に行きなさい。村に入るとすぐ、まだ誰も乗ったことのない子ろばが見つないであるのが見つかる。それをほどこいて連れてきなさい。もし、誰かが、『なぜそんなことをするのか』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐここにお返しします』と言いなさい」と言われ、乗り物の子ろばの用達をされました。

マルコ福音書は簡潔に出来事を伝えます。マタイ、ヨハネ福音書には理由が記されていますがマルコ福音書にはありません。弟子たちがどのようにイエスの言葉を受け止めたかは分かりませんが、主のお言葉ですから、その通りに行動しました。私は父なるお方のご計画の中にある道を歩まれるイエスを見させていただき、主のお言葉ですから、と弟子たちがしっかりと歩む姿の中に、この出来事の真実を見させていただきます。



Read God's Word.